

OITホールで『愛と誠』試写会
常翔学園高生徒たちと交流

舞台あいさつをする三池監督



生徒からの質問に答える三池監督

日本を代表する著名な映画監督の三池崇史氏(79年大阪工大高卒)が6月13日、新作『愛と誠』(同16日公開)のキャンペーンで母校の常翔学園高に凱旋しました。この作品は、1970年代に連載された梶原一騎・ながやす巧原作の人気漫画を昭和の雰囲気表現するため、当時の歌謡曲を使ってミュージカル風に演出した「純愛大河口マン」で、第65回カンヌ国際映画祭にも出品された話題作です。配給元の角川書店の協力によりOITホールで行われた試写会に同高校3年生463人を招待。上映後に舞台あいさつと交流の場を持ちました。主演の妻夫木聡さんもサプライズゲストで登壇。会場内は生徒たちの大歓声と拍手で包まれました。

三池監督「現実から逃げずに」
妻夫木さん「失敗を恐れず前に進んでほしい」

三池監督が母校を訪ねたのは卒業後初めてで「淀川の堤防のにおいが懐かしい」と感慨もひとしおの様子。新しくなった校舎を見て母校の変わりように驚くとともに、その発展ぶりを喜んでいました。「ちょうど33年前、この学校を卒業したのですが、大人になってたまたま映画監督になれた私が、思い切って楽しみながら作った

映画を、これから社会に出ていく出身校の皆さんに見ていただけたことがすごくうれしい」とあいさつ。ラグビー部主将の山田有樹君から「三池さんは高校時代、ラグビー部に所属していたと聞いたのですが本当ですか」との問いに、「ラグビーをやりたくて入学したものの、故荒川監督をはじめ野獣のようなコーチ陣の先生。全国からすごい選手も集まっています『これはまずい』と、1年生の夏合宿前に辞めてしまった」と当時のエピソードを披露しました。

スーパーコースの遠入光さんからの「お二人が仕事をするに当たって一番大切にしていることは何ですか」と“真面目な”質問に、三池監督は「僕がいたころとはずいぶん違う学校になったなあ」と笑いを取りながら、「ラグビーで挫折した後も学業など現実から逃げ続け、逃げられなくなった時に映画と向き合った。皆さんも明日の試験から逃げずに頑張してほしい」と語りました。主人公の太賀誠役を演じた妻夫木さんは、何となく芸能界に入ったため、最初は芝居が思うようにできなかった経験談を紹介。「悔しくてがむしゃらにやって、生きがいを感じるようになった。皆さんも失敗を恐れずに前に進んでほしい」とエールをいただきました。

最後に生徒代表として、映画の主人公と同じ名前の幾間愛さんと小川誠君が三池監督と妻夫木さんに花束を贈呈。会場に来れなかったもう1人の主人公・早乙女愛役の武井咲さんには、ラブメッセージボードを贈ったほか、会場の生徒全員がメッセージを書いたハート型のコメントカードを、同日夜に東京で行われたジャパンプレミアで合流する2人に託しました。三池監督は「いい思い出になった。この学校出身で良かった。皆さんが将来、今日のことを思い出すことがあったら、この映画と一緒にとどめてもらえたらうれしい」と感想を述べ、会場を後にしました。

三池監督は、映画は最終的に劇場によって完成すると話します。3年生の夏、全員でこの映画を鑑賞し、偉大な先輩からメッセージを受け取った生徒たちには特別な思い出が刻まれたようです。

花束を贈呈する
幾間愛さん(左)と小川誠君